神遊第27回公演

七夕能

よし足引の山姥が山廻りするぞ苦しき

みどころ解説　観世 喜正

狂言 **狐塚**

シテ（太郎冠者）山本泰太郎
アド（次郎冠者）山本 則孝
アド（主人）遠藤 博義

――火入れ――

能 **山姥**

シテ（山の女・山姥）観世 喜正
ツレ（遊女百万山姥）坂 真太郎
ワキ（従者）殿田 謙吉
ワキツレ（供人）大日方 寛
ワキツレ（供人）則久 英志
アイ（境川の里人）山本泰太郎

笛 一噌 隆之
小鼓 観世新九郎
大鼓 柿原 弘和
太鼓 観世 元伯

地謡 観世銕之丞
岡田 麗史
柴田 稔
中所 宜夫
遠藤 和久
馬野 正基
遠藤 喜久
長山 耕三

後見 観世 喜之
奥川 恒治

ろうそく能

KAMIASOBI
rosoku noh
YAMANBA

山姥

あらすじ

狂言 **狐塚**

鳥が山田を荒らして困るので、太郎冠者と次郎冠者が鳴子を振って元気に鳥を追い払うが、夜には狐が出るというので、日が暮れると心細くなってきた。主人が酒を持って見舞いにやってくるが、二人は狐が化かしに来たと思って信用しない。さて二人がとった行動は…。

能 **山姥**

京で山姥の曲舞（くせまい）を得意とし「百万（ひゃくま）山姥」とあだ名される遊女（ツレ）が、従者（ワキ・ワキツレ）を連れて善光寺詣の旅に出る。越後越中の境川にて里の男（アイ）に道案内をさせ、修業の為に阿弥陀如来が通ったという険しい道を進むが、にわかに辺りが暗くなり、現れた山の女（前シテ）の庵に案内される。山の女は遊女に歌を聞かせて欲しいと頼み、また山姥の曲舞のことに詳しいので一行が不思議に思って名を尋ねると、自分こそが山姥であると明かし、夜更けに歌に合わせて舞おうと告げて消え失せる。〈中入〉里の男が従者に問われ、山姥について物語る。夜が更け、遊女が笛を吹いて待っていると山姥（後シテ）が現れる。山姥は曲舞の一節を舞い、仏法の節理を説き、春に花、秋に月、冬に雪をたずねて山廻りする様を語り、やがて峯に翔けあがると谷に渡って行方も知れず去り行くのである。

「山姥」とは、いわゆる鬼女ではなく、
深山に住まう仙女に近い存在として能の中で描かれています。
世阿弥が自らの「申楽談儀」でも自賛する
「曲舞（くせまい）」がみどころの、禅色の濃い曲。
ろうそくの炎のゆらめきの中、
大自然そのものを象徴する能「山姥」をお楽しみください。

一噌隆之

柿原弘和

観世新九郎

観世元伯

観世喜正

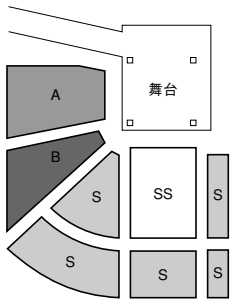
平成16年7月6日（火）開演午後7時（開場6時）

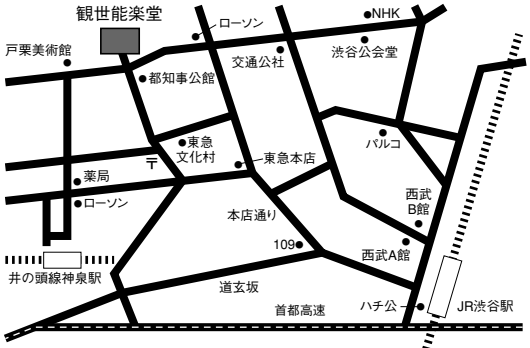
観世能楽堂 渋谷区松濤 1-16-4　03-3469-5241（代）

正面SS席 7,000円／正面S席 5,500円
脇正面A席 4,000円／脇正面B席 3,000円
学生券各500円引き（当日学生証の要提示）　全席指定

発売日 5月27日（木）

お問合せ・お申込み：**神遊 03-5227-1830（TEL&FAX）**
mail@kamiasobi.com　http://www.kamiasobi.com/
チケットぴあ 0570-02-9988　@ぴあ http://t.pia.co.jp/





寄り駅：JR・地下鉄・井の頭線・東横線 渋谷駅（ハチ公口）下車徒歩12分
井の頭線 神泉駅下車徒歩10分
駐車場がございませんので、お車でのご来場はご遠慮下さい。

Photo: Tetsuo Sakurasawa　Shinji Aoki / Design: Hisashi Abe